

『総合演習 A』に関する事前オリエンテーション (Ver.1.0)

2022.03.19

■授業目的

本講義では、情報社会学科の専門領域に関連する和書の輪読を通して、情報社会学科の各専門領域についての理解を深めることを目的とします。さらに、章毎に書籍を要約し資料に纏める力、グループで自分の理解を発表する力、ディスカッションを通して自分の考え方を共有し合う力を身につけることを目指します。そして、この科目で習得した力が、3年次のゼミナール、4年次の卒業研究で必要となる知識やスキルとなることを狙いとしています。

■授業の進め方

- 本授業の担当教員は、石野、関、西川、吉田の4名の教員で行います。
それぞれの教員が自分の専門に近い図書を1冊ずつ指定します。
- 学生は前半（第2週～第8週）と後半（第9週～第15週）で計2名の教員の授業を履修します。
- 学生は教員が毎回指定する図書の読書範囲（単元）を事前に読んで、「事前課題レポート」を **manaba** ^(注)（小テスト）に提出し授業に臨みます。
- 学生は授業では、グループ毎に読書範囲についての討議し、授業後、全員「討議記録レポート」を **manaba** ^(注)（小テスト）に提出します。
- この演習では、事前に担当教員と指定する図書を紹介します。各学生は希望する図書（前半・後半の2冊）を選択し、それをもとにクラス編成を行います。 ※ 人数調整の結果、必ずしも希望する図書を学べるとは限りません。
- 授業は前半・後半で担当教員、図書がかわりますが、クラスは授業を通じて変わりません。
- クラス決定が通知されたら、学生は図書（2冊）を購入し教員の示すスケジュールに従って輪読を進めます。
- この演習は、授業時間内の活動だけで完了できることはありません。
読書と提出資料作成は授業時間外に実施してください。

(注)manaba（マナバ）はクラウド型の教育支援サービス(湘南キャンパス HP 掲示)

なお、本授業は全回対面授業ですが、本学のガイドラインに従いオンライン授業（リアルタイム）とすることがあります。授業方法の変更がある場合には、予め連絡をします。

また、この回以降の授業内容については、教育上の配慮から変更することがあります。変更の際には、別途連絡をします。

■スケジュール

週	月日	担当教員	授業内容
第1週	4月12日	担当教員全員	授業オリエンテーション
第2週	4月19日	前半指導教員	指定図書の第一単元読後、討議
第3週	4月26日		指定図書の第二単元読後、討議
第4週	5月10日		指定図書の第三単元読後、討議
第5週	5月17日		指定図書の第四単元読後、討議
第6週	5月24日		指定図書の第五単元読後、討議
第7週	5月31日		グループ発表内容の整理・資料作成
第8週	6月7日		グループ発表
第9週	6月14日		後半指導教員
第10週	6月21日	指定図書の第二単元読後、討議	
第11週	6月28日	指定図書の第三単元読後、討議	
第12週	7月5日	指定図書の第四単元読後、討議	
第13週	7月12日	指定図書の第五単元読後、討議	
第14週	7月19日	グループ発表内容の整理・資料作成	
第15週	7月26日	グループ発表	

■クラス分けと準備作業

- ・履修クラスは、前半と後半の教員の専門分野と指定図書などを鑑みて選んでください。
- ・履修クラスは A～D までの4クラスあり、履修者はこの中からいずれかのクラスに属することになります。
- ・クラス分けでは各人の希望を考慮します。1つのクラスはおおよそ 23～24 名になります。(別表参照)
- ・クラスが確定したらすぐに図書を購入し、第2週の授業日までに指定の箇所を読み課題を行って授業に臨んでください。
(図書は文教サービスにて対面で販売。amazon 等ネットからの購入も可。)

■教員別指定図書

希望 順位	クラス名	前半授業(②～⑧)		移動	後半授業(⑨～⑮)	
	A	関	ユーチューバーが消滅する 未来 2028年の世界を見抜く	➡	石野	デジタルは人間を奪うのか
	B	石野	デジタルは人間を奪うのか	➡	吉田	タテ社会と現代日本
	C	吉田	タテ社会と現代日本	➡	西川	誰が「知」を独占するのか： デジタルアーカイブ戦争
	D	西川	誰が「知」を独占するのか： デジタルアーカイブ戦争	➡	関	ユーチューバーが消滅する 未来 2028年の世界を見抜く

以上

教員	指定図書を紹介	第1単元(初回) 授業範囲
関	<p style="text-align: center;">岡田斗司夫著「ユーチューバーが消滅する未来 2028年の世界を見抜く」(PHP新書) ¥968 Kindle版¥765</p> <p>この本の著者の岡田斗司夫氏は、学者でもなければ情報の専門家でもない。とはいうものの、Googleの検索で「おかだと」まで入れると名前が出てくる有名人である。よく知られた仕事は、ガイナックスという最後までやり遂げられないアニメ会社の創設であり、その精神は著名な庵野秀明氏の仕事に受け継がれている(あくまで私見だが)。 本書は、読みやすいような、読みにくいような本である。ニコ生の対談から起こしたものでそうなのかもしれない。内容は、現代の情報社会の中で生きる人間の振る舞いについて言及していて、あながち間違いではない、鋭い指摘もある。頭の良い元祖オタクの文章は、事実を遡ることもあって、思いのほか読み応えがある。 この本は2018年に書かれて、未来のデジタル社会の変化を語っている。今年(2022年)であるから、著者の予測の一部は実現し、一方で予測が外れたものもある。そう思いながら読んで見ると面白い本である。</p>	<p style="text-align: center;">序章 「未来格差に備える」</p>
石野	<p style="text-align: center;">小川和也著「デジタルは人間を奪うのか」(講談社) ¥814 Kindle版 ¥770</p> <p>現代のデジタル社会は急発展し続けているが、ネット社会が与えている「光と影」の現実を紹介している。あらゆるモノがネットとつながる社会のIoT(Internet of Things)でモノのネット化で変わる。スマートフォンの次世代ツールとして、ウェアラブルコンピュータ、コンタクトレンズ型ディスプレイ、コンピューショナル・ファッション、3Dプリンター、自動運転の活用など、便利で華やかな生活が具体化してきている。ロボットの台頭や脳と肉体にデジタルテクノロジーが融合する未来など、SFの世界が現実味を帯びてきている。まさに人工知能が人間の能力を超える日が近い。そのうち、ロボットが人間の仕事の大半を担うのかもしれない。さらに仮想と現実の境界線が溶け、仮想企業や仮想通貨が国家体制に影響を与える時代になった。これからのデジタルテクノロジーの進化が近未来の情報社会へどのような影響を与え、我々人間の役割や優位性は何かを考える。</p>	<p style="text-align: center;">序章 「デジタルの船から、もはや降りられない」 (P.3~31)</p>
吉田	<p style="text-align: center;">中根千枝著「タテ社会と現代日本」(講談社現代新書) ¥924 Kindle版¥825</p> <p>グローバル化が進んだ今日では、さらに「多様性」という、多様な価値観を認めることが求められています。しかし、例えばプロジェクトマネジメント分野でも研究・実務を通じて、未だに「なぜ日本は他国と違うのだろう」を考える場面は少なくありません。 本書の著者、中根千枝氏は、50年来のロング&ベストセラー「タテ社会の人間関係」の著者で、専門は社会人類学なのですが、彼女の書籍は社会学的視点からそんな疑問にも解を導いてくれました。そして、女性初東京大学名誉教授である彼女は、2019年11月、現代社会に向けての普遍のメッセージとして新たに本書を出版されました。 2020年からパンデミックは継続し、海外交流は一気にデジタル化しました。そのなかでロシアがウクライナを侵攻する今日、真のグローバル化、日本の在り方が問われています。 本書を日本社会の基礎知識として共有し、これからの日本と多様性、そして情報技術がこの社会をどう変えていくかを考えたい一冊です。</p>	<p style="text-align: center;">プロローグ</p>
西川	<p style="text-align: center;">福井健作著「誰が「知」を独占するのか: デジタルアーカイブ戦争」(集英社新書) ¥836</p> <p>人類の歴史では長らく情報を保存・蓄積・公開するアーカイブ機能は図書館や公文書館が担ってきた。近年はデジタル化された情報も増え、Googleのような多国籍企業がアーカイブの主導権に食指を伸ばしている。その一方で、日本国内においては情報のアーカイブに対する意識が低く、貴重な資料をデジタル化し、アーカイブ化していくための十分な準備がなされていない。本書では国内外でのデジタル・アーカイブの現状を示したうえで、日本が直面している課題を具体的な事例を挙げながら論じている。授業準備では、本書の内容要約だけでなく、授業範囲で取り上げられているデジタル・アーカイブを実際に関覧しておいてほしい。</p>	<p style="text-align: center;">第1章 アーカイブでしのぎを削る欧米</p>